



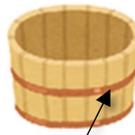
6月18日に行われたPT

Aドッジビー大会、参加された皆さんお疲れさまでした。

お父さんお母さんたちが思い切り体を動かして、だれもが楽しんでいらっしやる様子を見て、とてもうれしかったです。はじめて一緒に活動する保護者の方や、日頃見られない先生たちとのびんきりの笑顔？に出会えた有意義な時間だったと思います。参加いただいた皆さん、企画運営をしていただいた保体部の皆さん、ありがとうございました。

さて、7月6日には、参観日を計画しております。今回は上・下学年の二つに分けた時間帯で、少し窮屈な計画となっておりますが、4校時には心肺蘇生法の講習も行われます。救命法は毎年体験しておくことが大切です。たくさんさんの参観、参加をお待ちしております。

水を漏らさず



タガ

「家庭に『桶』(おけ)がありますか。」とお聞きしても、ピンと来ない方も多くなったでしょう。「桶」という言い方も薄れ、ましてや昔ながらの「桶」は格式の高い温泉か、回らない寿司屋さんなど、お店でしか見かけなくなりました。

タガが外れた最たるものと言えはロシアとウクライナの戦争でしょう。国連の働きも国際法も通用しない、まさに国際秩序の崩壊です。国内で衝撃的だったのが、安部元首相の銃撃事件。日本もこんな国になったのかと思つたのは私だけでしょうか。

その後、連続して起こる強盗、襲撃事件。闇バイト募集で集まったお互いの面識もない犯罪者集団が起こす強引な犯行。綿密な計画がなく、逃げ切れば成功。失敗しても指示された主犯は闇の中。捕まった者も罪の意識が薄い。

幼いころ、石遊びで家のガラスを割った私は、涙声で謝りながら自分から押入れの中に入ったのを覚えています。昔は「おしおき」がしつけの一つの方法でした。謝るだけでは済まされず、その分の償いがあるのが当たり前でした。押入れに入れられたり、掃除を言いつけられたり：みんなが平和に生きていくためには秩序を守ることがどれだけ厳しく尊いことか、過去の日本の戦争からみんなが学んでいた時代だったのでしよう。近年、「体罰」が問題になり、しつけ(おしおき)についても社会のとらえ方が変わってきました。しかし、子どもを育てる私たちが秩序の厳しさと尊さを、愛をもって教える責任まで放棄してはいけません。「ならぬものは、ならぬ。」これは大事なしつけです。もうすぐ長い休み。タガが緩んで水が漏れないように、子どもを見守りましょう。

その「桶」はスギやヒノキなどの板を縦に丸く組み、それを「タガ」と言われる竹で回りを締めて固定してつくられます。この桶の構造から生まれたのが「タガが外れる」という表現です。「外側から締め付けて形を維持しているものがなくなり、それまでの秩序が失われる状態」の時に使われます。前置きが長くなりましたが、実は今、個人的な印象として、世の中のタガが外れてしまつていないかと心配しています。

それは、個人的印象として、世の中のタガが外れてしまつていないかと心配しています。タガが外れた最たるものと言えはロシアとウクライナの戦争でしょう。国連の働きも国際法も通用しない、まさに国際秩序の崩壊です。国内で衝撃的だったのが、安部元首相の銃撃事件。日本もこんな国になったのかと思つたのは私だけでしょうか。

その後、連続して起こる強盗、襲撃事件。闇バイト募集で集まったお互いの面識もない犯罪者集団が起こす強引な犯行。綿密な計画がなく、逃げ切れば成功。失敗しても指示された主犯は闇の中。捕まった者も罪の意識が薄い。近年、「体罰」が問題になり、しつけ(おしおき)についても社会のとらえ方が変わってきました。しかし、子どもを育てる私たちが秩序の厳しさと尊さを、愛をもって教える責任まで放棄してはいけません。「ならぬものは、ならぬ。」これは大事なしつけです。もうすぐ長い休み。タガが緩んで水が漏れないように、子どもを見守りましょう。

子どもにヘルメットを 2023、4月に道交法の改正がありましたが、それより前に子どものヘルメット着用は保護者の責任として定められています。ヘルメットがあれば守れていた命がたくさんあります。夏休みに入ります。商品も出回っています。ぜひ、お子さんのヘルメット購入をご検討ください。

新型コロナウイルス、インフルエンザ等の予防について

学 校 長

学校ではマスクを着けている児童がまだ多いようです。しかし、街で見かける子どもたちはその多くがマスクを外しています。また、スポーツをするときはもちろん、少年団などの会食があるときは、食べ終わった後もマスクを外しておしゃべりをする人が多いでしょう。

集計方法が変わり、毎日報道されていた頃からすると関心が薄れていますが、新型コロナウイルスの感染者数は増加傾向がみられ、インフルエンザは、報告者数のうち5歳から9歳が全体の4割を占めています。

そして、今年、感染が拡大している「ヘルパンギーナ」

5月第23週（6月5日～11日）の報告者数は384人。前週から122%増加。例年同時期の定点平均値と比較して約17.3倍。感染者の8割が1歳から8歳までですが、幼児ばかりとは限りません。

（参考:宮崎県感染症発生動向調査2023第23号）

ヘルパンギーナ

高熱とのどの痛みを主症状とする感染性の病気。

38℃以上の高熱が3～5日続き、のどの奥に口内炎がたくさんできる。

感染した人の咳やくしゃみにはウイルスが潜んでおり、飛び散ったウイルスを吸い込んだり、手で目や鼻、口を触ったりすることで感染する。

私たちはコロナ禍を3年間も経験し、全体の約3分の1の人は実際に感染し、その症状に苦しめられました。今こそ、そのことを生かさなくてはなりません。

子どもの健康を守るためにも、家庭における手洗い、お年寄りや人の集まる場所でのマスク着用や換気については、大人がしっかり管理しましょう。

「みんなで考え みんなでつくる みんなの小林小学校！」